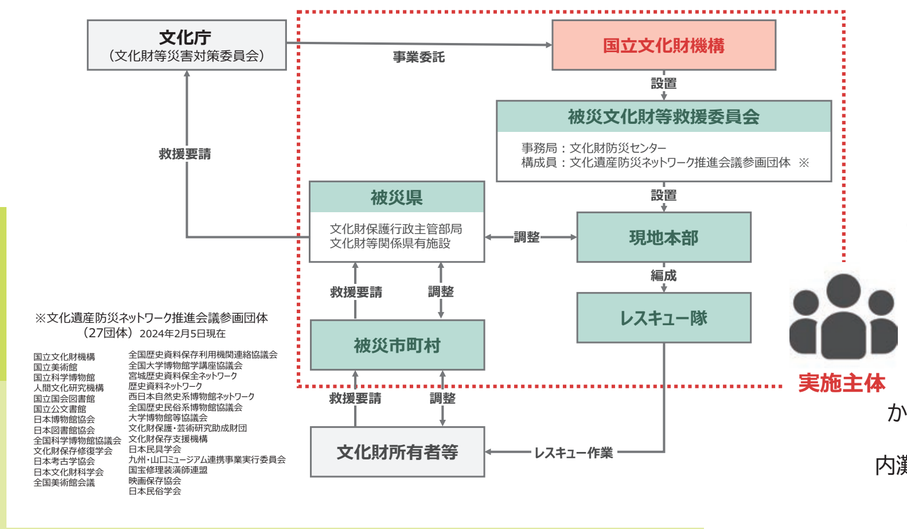
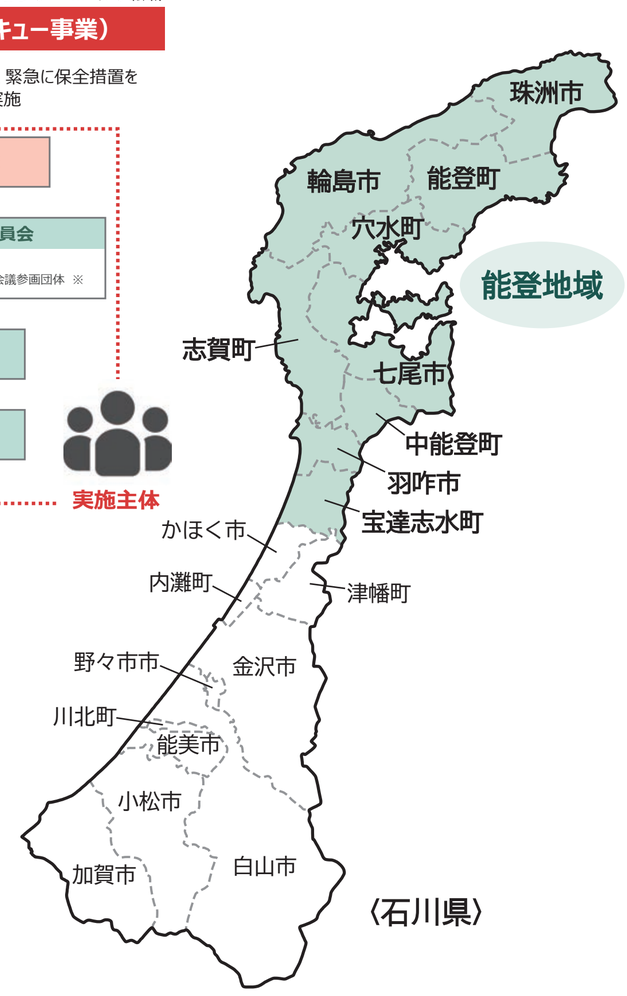
いしかわ歴史資料保全ネットワーク

＊文化財防災センター HP より転載





能登半島地震と いしかわ史料ネットの設立

いしかわ歴史資料保全ネットワーク（略称：いしかわ史料ネット）は、2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震を受け、3 月 1 日に大学教員・市町文化財担当者・県内博物館／資料館学芸員を中心に立ち上げました。金沢大学に事務局を置き、現在、正会員・サポート会員合わせて約 60 名が参加しています。

能登半島地震・豪雨の被災資料レスキューは、国立文化財機構文化財防災センターが中心となって行われていることが、これまでのレスキューと異なるところです。文化財レスキュー事業の枠組みの中で、いしかわ史料ネットは「レスキュー隊」に位置づき、各市町の文化財担当者と連携しつつ、センターのレスキュー活動に協力しています。

また、歴史資料ネットワーク・国立歴史民俗博物館と県内の博物館／資料館を繋いで、下張りはがしワークショップを開催したり、レスキュー史料の整理作業を進めています。

歴史資料を救出する

能登町九里川尻の旧肝煎家でのレスキュー

2024 年 6 月 6 日、本会 5 名・能登町教育委員会 2 名・文化財防災センター 5 名が参加したレスキューで、土蔵から近世～近代の古文書・仏書などを搬出しました。

被災史料のレスキュー

志賀町末吉の薬商・近代名望家宅でのレスキュー

本件は、歴史資料ネットワークにレスキュー依頼があったもので、神戸から 6 名の方にお越しいただき、本会・志賀町教育委員会・文化財防災センターも合わせて、20 名を超える大規模なレスキューになりました。2024 年 7 月 13 日、母屋・蔵・工場とよばれた建物から、古文書・漆器・焼物類など 120 箱以上を搬出しました。

珠洲市三崎町伏見の旧肝煎家でのレスキュー

本件は、いしかわ史料ネットに直接レスキューの依頼があったもので、2024 年 8 月 27 日、伏見地区の近世末～近代の村役人・地主であった旧家から、古文書や下張りのある襖・屏風をレスキューしました。本会・文化財防災センターの 11 名のほか、新潟歴史資料救済ネットワークからも応援をいただきました。

珠洲市蛸島のＤ家文書の整理

2024 年 8 月以降、月 1 回のペースで、珠洲市蛸島のＤ家文書の整理作業を石川県立歴史博物館で行っています。Ｄ家は、石川県川北町にもお宅があり、所蔵者が蛸島の家から川北町に運び出し、一部水を吸っていた文書をご自身で乾燥させておられました。同家は蛸島の網元だったため、漁業・金融関係の文書が多く残されています。

歴史資料を調査・保全し未来へ伝える

襖の下張りはがしワークショップ

2024 年 3 月 30 日と 4 月 13 日に、歴史資料ネットワーク・国立歴史民俗博物館から講師にお越しいただき、羽咋市歴史民俗資料館で下張りはがしワークショップを開催していただきました。同館では、市内全戸に「捨てないで」チラシを配布されて、多くの被災資料を受け入れられ、被災ゴミ置き場からも襖などをレスキューされています。

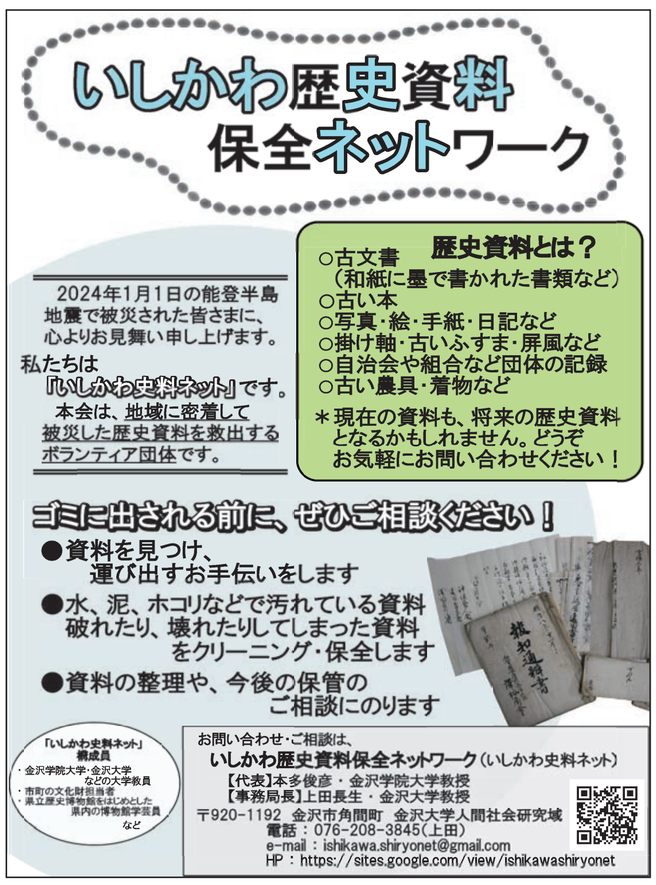
救出した史料の整理

志賀町米浜のＺ寺の仏書の整理

2024 年 6 月 14 日、志賀町米浜の真宗寺院Ｚ寺で、本会 6 名・志賀町教育委員会 2 名・文化財防災センター 9 名で、約 4000 冊にのぼる仏教関係の典籍・書籍をレスキューしました。史料は、地元の方々が経蔵から本堂に運び出してくださっていました。金沢市立玉川図書館近世史料館に搬入された史料の整理は、9 月から始め、専修大学の近現代史ゼミの皆さんにもお手伝いいただきました。

活動を広める

いしかわ史料ネットのチラシ



文化財レスキュー啓発マンガ

啓発マンガは、被災地における文化財保護、文化財レスキュー活動への関心・理解を高め、地域の歴史・文化資料の喪失を防ぎ、今後展開される各地のレスキュー活動の啓発に資することを目的に、本会が企画・制作しました。実際にあったレスキュー事例をもとに会員がストーリーを作成し、作画は金沢学院大学・金城短期大学の学生がそれぞれ担当しました。

【文化財と文化財レスキュー編】絵・熊谷日菜子（金沢学院大学芸術学部）